

2021年度「市民防災・減災活動公募助成」事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人京都丹波・丹後ネットワーク
 代表者・役職名 氏名 理事長 牧 紀男

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

ダイバーシティを意識した廃校活用広域避難所モデル構築事業

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

2010年6月に設立し、人とNPO、地域、企業、大学等のネットワークを構築することにより、地域の様々な課題に向き合う活動をしています。2014年の豪雨被害をきっかけに、防災・減災にも力を入れ、BCPの策定支援や外国人への防災研修などを実施してきました。また、現在はコロナ禍でのひとり親家庭や外国籍家庭等への食料支援を通して、様々な支援に繋げる活動もしています。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

今回の活動は、地域で小学校の統廃合が進むなか、その廃校を活用して災害時の避難所設営や運営を、世代・性・職業等の異なる住民や組織が、ダイバーシティやインクルージョンを意識した、誰もが避難しやすい、したいと思える避難所モデルを設営・運営することを目的としています。
 また、地域で起こる災害だけでなく、今後起こりうる大規模災害を想定した避難所モデルを、様々な組織(行政・企業・大学・日本防災士協会・子育て団体など)と連携しながら創出し、廃校を活用して様々な実証実験ができる環境を整えたいと思い企画しました。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

廃校を活用した避難所モデルを創設し、誰もが取り残されることのない、誰もが避難しやすい避難所の運営を目標に、①ダイバーシティ研究所田村太郎氏による講演 ②防災士をアドバイザーとして、企業や大学を交えた勉強会の実施 ③廃校において、住民・市・社協・企業・大学が参加して、実際に避難所を設営・運営する訓練を行うと共に、ICTを使った避難者のニーズ把握の実験などを実施 ④③の訓練・実証実験を踏まえ、防災士と共に振り返りを行いました。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

結果：

- ①講演…回数：1回 参加人数：21名
- ②勉強会…1回 参加人数：28名
- ③訓練及び実証実験…1回 参加人数：40名
- ④振り返り…1回 参加人数：5名

成果：

廃校を活用することのメリットと課題があきらかになりました。
 様々な組織の参加により、それぞれの強みを活かした実験を行うことができ、廃校活用の新たな可能性を見いだすことができました。

世代や性、状況の異なる人の参加により、様々な視点で避難所設営に必要な事項を検討することができました。

社会的変化：

多様な主体を巻き込み、広域を想定した訓練と実証実験を行うのはこの地域では初めての試みであり、廃校をこのような訓練に活用する意味は大きいと感じています。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

課題：

課題は何と言っても資金の調達につきます。多様な主体と共に防災・減災を実現していくためには、今後どこからどのような資金を調達できるかは大きな課題です。真如苑様にはこのような機会を与えていただき、感謝申し上げます。

今後の展望：

振り返りの中で、今後実施していくべき方向性が見えてきました。一つには、ネット環境のない避難所での情報収集、避難者の状況把握をどうするかです。これを解決するためにICTをどのように構築し、活用していくかを検討していきたいと思っています。もう一つは、防災・減災に一人でも多く関心を持ってもらえるような取組みを、ゲームなどを活用して楽しみながら行いたいと考えています。

7. 参考資料：プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。



誰も取り残さない災害対応をめざして ～災害多発&ウィズコロナ時代の新たな防災～

災害時はスピードとボリュームが最優先され、女性や高齢者、障害者、外国人など多様なニーズを持つ住民への対応が後回しになりがちです。過去の災害での取り組みから、どのような状況にあっても「誰ひとり取り残されることのない」災害対応をめざして、地域に求められる取り組みをともに考えます。

日時 令和3年11月13日（土曜日）18:00～21:00（17:30開場）

場所 市民交流プラザふくちやま 視聴覚室

福知山市駅前町400番地

※現地での開催が難しい場合は、オンライン開催に切り替える場合があります。その際は事前にご連絡いたします。

内容

- 田村太郎氏による講演
 - ・過去の災害での避難所運営や被災者支援から見えてきた課題
 - ・ダイバーシティとインクルージョン（多様性配慮と包摂）が必要な理由
 - ・コロナ禍で変化する避難様式と誰ひとり取り残さない災害対応について
- 質疑応答



一般財団法人ダイバーシティ研究所 代表理事 田村 太郎氏

講師紹介

兵庫県伊丹市生まれ。阪神大震災で被災した外国人の支援や復興まちづくりに取り組むネットワーク「神戸復興塾」事務局長として復旧・復興に関わり、2007年に「ダイバーシティ研究所」を設立。CSR（企業の社会的責任）におけるダイバーシティ戦略や自治体による多様性配慮のための施策づくり、多文化共生の推進に長年携わっている。

参加費 無料

定員 30名

参加申し込みは下記のページからお願いします

<http://kyoto-tantan.net/bousai2021/>



<主催・申し込み・問合せ> 特定非営利活動法人京都丹波・丹後ネットワーク
メール tantan@kyoto-tantan.net
電話 0773-45-3507

後援 福知山市 綾部市 福知山市社会福祉協議会 日本防災士会京都府支部
災害時連携NPO等ネットワーク

この事業は「真如苑」の助成を受けて実施致します